

4段階評価 「4」～期待以上 「3」～ほぼ期待どおり 「2」～やや期待を下回る 「1」～改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				学期別	総合	
知に 関する 内容	1「読み」「書き」「計算」「話すこと」の到達目標を基に、基礎学力の向上を図る。	○学期ごとの観点別評価で「おおむね達成」と評価できる児童が80%以上を達成する。	○授業や帰りの会等において、名文を音読する時間を設定する。 ○朝の時間などにWeb学習問題に取り組む時間を設定する。 ○ことばキラリの時間において作文等に取り組ませる。 ○作文の基本的な書き方についての指導を徹底する。 ○多読賞や飛躍賞などの表彰の仕方を工夫して読書への意欲を高めさせる。	3	2.7	・「話す聞くスキル」を活用した名文読みや算数のWeb学習問題に継続して取り組むことができたことなどこれまでの積み重ねから漢字力や計算力などの基礎的学力がやや向上している。 ・Web学習問題については、校内研究のひとつとして取り組み類似問題を授業で活用するなどの工夫を行っている。 ・原稿用紙の使い方については、まだ十分身に付いたとは言えないので、原稿用紙に書かれてある文章を視写させる手立てなどの工夫を行っていききたい。 ・2学期は多読賞や読書ビンゴの取組など、読書意欲を高める取組ができた。
		○各学年ごとに必要な家庭学習の時間を80%以上の子どもが達成する。 【家庭学習時間】 □ 学年×15分間	○家庭と連携しながら家庭学習の手引きを積極的に活用し、家庭学習の充実を図る。	3	2.7	・家庭学習に取り組むことは、概ねできているので、今後は学習時間をさらに充実させていきたい。個人差についても、継続的に粘り強く指導していききたい。
徳に 関する 内容	1基本的な生活習慣や社会的マナー・エチケットを身に付けた子どもの育成を図る。	○誰にでも明るく元気のよいあいさつができる子どもの割合が85%以上を目指す。 ○返事ができる子どもの割合が85%以上を目指す。	○「大東小の当たり前」について具体的に場面を提示しながら繰り返し指導する。 ○「いつでも、どこでも、だれにでも」気持ちのよい声かけができるように、「オアシス運動」を推奨する。	3	2.7	・登校時、校内でのあいさつ・返事がよくなるようになり、児童の意識調査でも85%の達成率であった。しかし、依然として個人差があること、校外・地域できていないことが、今後の課題である。
		○相手に対し思いやりのある言葉遣いができる子どもの割合が80%以上を目指す。	○「くん・さん」などの優しい言葉を遣うよう学級活動や全体の指導の場で重点的に指導する。	2.5	2.8	・「ありがとう」が言える児童が85%になった。互いに思いやりをもって接することができるようになりつつある。「くん・さん」は、授業中は使っているが、児童だけになると、呼び捨てで読んでしまうことが多い。
内容	2自ら考え、進んで行動し、何事にも積極的に取り組む子どもの育成を図る。	○学校行事等に主体的に活動するとともに、委員会活動や係活動に積極的に取り組める子どもの	○児童の意欲を高めるために、係や当番、委員会活動における活動に対して、見届けや評価を適切に行う。	4	3.3	・児童の意識調査では、90%近くが肯定的な評価をしている。責任をもって取り組む児童が増えている。しかし、個人差もあるので、できないところは、手順を教えたり、ほめたりして力を付けさせたい。また、休み時間の声かけ

		割合が85%以上を目指す。				も積極的に行っていく。
体 関 す	1 体力向上プランに基づき、年間を通して主体的に体力を向上させようとする態度の育成を図る。	○体力テストの判定結果において、5種目で全国平均を上回る。	○ 体力向上プランをもとにした各クラスの結果の分析を行うとともに個人カルテの活用を図る。 ○ 全校統一した体育の授業の流れを提示する。 ○ 体育の授業等において、主運動のためのパワーアップタイムの位置付けを行うことで、意図的計画的な体力向上を図る。 ○ 昼休み時間等における外遊びの推奨を図る。	3	3	・体力テストにおいては、8種目中5種目において全国平均を上回ることができた。上体起こし、立ち幅跳び、シャトルランは、全国平均を若干下回っているため、指導の充実をさらに図っていく。 ・夏季休業中に職員研修で体育の授業の流れを確認した。
内 容	2 給食時の食育指導を通して、好き嫌いのない食生活を送ることができるようにする。	○「食べ残し0」週間を設け、期間中の残滓0の日の割合が80%を目指す。	○ 栄養教諭と連携した授業を全学級実施し、食に関する指導の充実を図る。	3	3.6	・給食マルモリ週間の自己評価において、86%の児童が「残さず食べることができた」「マナーを守ることができた」と答えていた。 ・学校保健委員会をとおして、給食の様子を保護者が参観し、マナーの重要性について啓発することができた。
家 庭 や 地 域 と 連 携 に 関 する 内 容	1 家庭や地域と連携して、「早寝・早起き・朝ご飯」「弁当の日」等の運動を通して、子ども達の健全育成に努める。	○「朝ご飯」を食べて登校する子どもの割合が100%を目指し、かつ「栄養バランスのとれた朝ご飯摂取」の意識啓発に努める ○「弁当の日」を設定し、100%の児童・生徒が弁当の日に取り組む。	○ 食に関する意識を高めるために、学校保健委員会などを通して家庭との連携を図る。 ○ ワークシート(「ぼく・わたしのお弁当」)を作成し、全児童の「弁当の日」の取組について確認する。また、ワークシートを校内に掲示することで、児童の意欲を高める。	3	3	・学校保健委員会において、給食試食会を実施するなど保護者に対して食育についての啓発を行うことができた。 ・「弁当の日」では、様々なコースを設定し、弁当を作ることの大変さなどを児童に感じさせることができた。中には、自分で弁当を作る児童も見られ、関心が高まってきている。